

様式第 2 号（第 8 条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和 6 年度 第2回加須市ゼロカーボンシティ協議会
開催日時	令和 7 年 3 月 1 1 日（火） 午後 1 時 0 0 分から午後 2 時 3 0 分まで
開催場所	加須市役所 5 階 5 0 4 会議室
議長氏名	浅野和生
出席委員	浅野和生（会長）、前田義克（副会長）、有賀健高、斎藤清、杉沢正子、森田勝美、谷川拓也、坂本優太、大河内修治、若山敬、鈴東祐介、伊東哲也、金井陽一郎、佐藤政和、大和広明、大柳心乃（代理）、中村咲優（代理）
欠席委員	中里孝、藤田直樹、高林蓮
オブザーバー	石原裕一郎（環境省関東地方環境事務所） 廣瀬光政（環境省関東地方環境事務所） 八林公平（脱炭素まちづくりアドバイザー）
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議 事 （1）本市の取組状況について （2）アンケート集計結果について （3）ゼロカーボンシティ推進共通取組項目について （意見交換） 5 その他 ・令和 7 年度スケジュール（案）について 6 閉 会
会議資料 の名称	【資料 1】本市の取組状況 【資料 2】アンケート集計結果 【資料 3】ゼロカーボンシティ推進共通取組項目の選定 【資料 4】令和 7 年度スケジュール（案）
会議の公開又 は非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の 職・氏名	環境安全部環境政策課長 前田辰男

事務局職員 職・氏名	環境安全部長：増田浩之、環境政策課長：前田辰男 同課主幹：鈴木深雪、同課主査：阿久津健介 騎西総合支所地域振興課長：伍井正巳 北川辺総合支所地域振興主幹：衛藤紀子 大利根総合支所地域振興課長：阿部浩明
会議録の 作成方法	☒ 要点記録 ☐ 全文記録
その他必要 な事項	なし

様式第 3 号（第 8 条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
事務局	1 開 会
	半数以上の委員が出席のため、加須市ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第5条の規定による会議開催の定足数を満たしていることを報告
浅野会長	2 会長あいさつ
角田市長	3 市長あいさつ
浅野会長 (議長)	4 議事
事務局 (前田環境政策課長)	(1) 本市の取組状況について(資料1説明)
	(質疑応答)
谷川委員	・電気自動車の充電器に力を入れているが、実績はあるか。
事務局 (前田環境政策課長)	・設備を導入したのが1月で、実績はまだ把握できない。
事務局 (前田環境政策課長)	(2) アンケート集計結果について(資料2説明)
各委員	各委員より、アンケート問1で回答した取組内容を説明
斎藤委員	・個々の取組みを実行していけばCO ₂ が減るということは分かるが、全体で実行するにはかなりの協力がないとできないのではないかと思います。
杉沢委員	・小さなことでも一人一人がやって積み重ねていくことが大事であるという考えから、マイペン・マイバック・マイボトルに取組んでいる。 ・1人1品ずつ持参し、交換するイベントを実施している。
森田委員	・工場のエアコンプレッサーのタイマー運転を実施している。夜間、設備は途中で停止するがコンプレッサーは朝まで動き続けておりロスがかなり出ていたため、設備と連動してタイマー停止するように改善した。
谷川委員	・自分が食べる米や野菜をすることで、輸送コストが削減でき、ひいてはゼロカーボンに繋がるのではないかと思います。 ・鶏を飼っているが、生ごみや野菜くず、くず米などを餌としてあげ、出てきた鶏フンは野菜を育てるために使っている。 ・生ごみはコンポストを利用することで肥料になり、燃やすコストの削減になる。
坂本委員	・保育園で保護者と話すと、ゼロカーボンを知らない方が圧倒的に多い。市役所の取組みを知らない方も多くいるので、行政がもっと発信することから始めるのが良いと思う。

大河内委員	・関連会社でCO₂排出量算出サービスを提供している。今は大企業だけでなく、その1次下請け、2次下請け、3次下請けにも求められる時代になっている。例えば、「今の工場のCO₂排出量がどれくらいか」ということが求められるため、そのような機能を広く展開できれば良いと思う。
若山委員	・協会としては、秩父地域で農水省と連携し、CO₂削減対策として植樹事業を行っている。 ・FMラジオでごみのポイ捨てをやめましょうという取組みについて放送する予定である。
鈴東委員	・自社の取組みでは、電力消費が少ない車両やアルミを多く使った軽い車両の新型化に取り組んでいる。 ・ペーパーレス化を進め、紙の印刷はほぼ禁止としている。費用をかけずに環境負荷軽減に繋がることを実感している。 ・この協議会では、費用をかけるハード面だけの話ではないものを何か見出していくことがテーマになると感じた。
前田委員	・粉体塗装はVOC（揮発性有機化合物）を発生しないため、空気を汚さないという点では優れているが、LPガスを熱源として塗装するため、CO₂が大量に発生する。炉の外壁に遮熱シートを貼って、ガスの燃費の向上及び工場内の熱対策を行っている。
伊東委員	・これまで昼間は電力消費が大きく、電力需要があったが、太陽光発電する方が増え、送電線の容量を超過してしまうため抑制しなければならないといった現象が起きている。一般送配電事業者としては、電力設備をしっかりと作っていかなければならないと思っている。
金井委員	・通信インフラ事業者として、光ファイバーで通信を届けている。長距離で送るときは電気と光を相互に変換しているが、変換の際に電力を多く消費するため、変換せずにすべて光で送るといった光技術であるIOWN構想を展開している。いかに電力を使わずして通信できるかということを考えている。
佐藤委員	・近年、台風が大型化するなど、皆が何とかしなければならぬという気持ちは持っている。ただ、きっかけを掴めないということがあると思うので、行政がきっかけを作り、市民を巻き込んだムーブメントのようなことをすべきと思う。
大和委員	・環境に関心がない方には、ムーブメントが広がっていないといった課題がある。関心のない方に、いかにしてイベントに参加してもらうかという観点で、著名人の講演やポイントを付与した取組みを挙げた。 ・若い世代にとっては、生まれてからずっと温暖化問題に則しているもので、CO₂を減らす対策だけではなく、温暖化の悪影響を減らす対策、適応策を行わなければならない。 ・この協議会では何をやるのかというところで、加須市のオリジナリティを出せればと思う。
大柳委員	・高校生は安い服を買うことが多いと思うが、安い服は海外

	で大量生産され、日本に輸送されるということを学んだので、洋服は丈夫で長く着られるものを選ぶのが良いと思った。 ・外出先では燃えるごみとプラスチックごみの括りだけの分別に少し違和感があるため、もっと分別を徹底できれば良い。
中村委員	・高校生になってからは、水筒の持参ではなく、校内やコンビニでペットボトルを購入する機会が増え、これを減らせばプラスチックの削減に貢献できるのではないかと考えた。
有識者及びオブザーバー	有識者及びオブザーバーより、上記の各委員の取組内容の説明を踏まえ意見
有賀委員	・脱炭素を環境経済学の立場から考えると方法は2つ。1つは経済的手段で、一定の税金を課すこと。要するに値段を高くすれば、使う量を減らすということである。もう1つは、規制手段。オゾン層の破壊の原因物質であるフロンガスのように規制し、使用できないような形をとることである。 ・他の国や地域でやっていない何か面白い政策を加須市でできれば良い。 ・長期的、短期的の両視点から考えていかないと難しい。
石原氏	・様々な意見が出たが、優先順位を付け、長期的、短期的にどのように進めるか道筋を立て、着実に進めていただきたい。 ・環境省としては、全国各地で、脱炭素に取り組む自治体を支援しているが、高いモデル性、先進性を求めている。そのような自治体を参考に、オリジナリティ、先進性、モデル性があるものをぜひ今後作っていただきたい。 ・色々な分野の方が参加される協議会は、あまり例がないので、この協議会を中心に取組みを実行していただきたい。
廣瀬氏	・ゼロカーボン知らない方が多い、関心がある層とない層との差が大きいところを感じている。環境省でもデコ活といった普及啓発活動をやっているが、なかなか広がっていない。 ・普段の行動の中でも脱炭素に繋がっているというところをまずは認識してもらいたいと感じている。 ・今後の検討では、ソフト面やきっかけづくりといったところも施策として考えていただきたい。
八林氏	・皆様の意見が多彩であり、ナレッジシェア（知識の共有）というところで非常に重要だと思った。 ・皆様の意見を分類すると、1つは省エネ的なものであるが、これはある程度当たり前のものになっている。もう1つは再エネ。他には、今回の意見ではあまり出なかったがシェアリングはまだ余地があるかと思う。一緒に運ぶことや世代を渡って使うような仕組みが生み出されていくと良い。 ・マネジメントでは、大きな範囲での全体の見える化や目標管理といったところがより進んでいくと良い。 ・次に何を当たり前のものにしていくかというところで、今後の議論が進んでいくと良い。

浅野会長	・加須市は 130 ㎥もあり、その大半が田畑であるという特性があるので、それが耕作放棄地や荒地にならずに有効な緑地になるということは加須市にとっては意味があることではないかと思う。また、公共の場や公園についても、ぜひモデル的な緑地ができれば良いと思う。 ・加須市は標高差が 6m しかなく、全国でも稀にみる平地なので、自転車の活用が非常にしやすく、地域特性があるのではないかと思う。
	(質疑応答)
有賀委員	・加須市として具体的な目標は決まっているのか。 ・現状、どのくらい排出があるのか。
事務局 (前田環境政策課長)	・本市の区域施策編では、2030 年度に、2013 年度比 46%削減を目標としている。2013 年度の排出量は 767.740kt-CO₂ で、2030 年度は 414.5790 kt-CO₂ までの削減を目標としている。 ・直近の数字では、2021 年度で 666.930 kt-CO₂ である。
事務局 (前田環境政策課長)	(3) ゼロカーボンシティ推進共通取組項目について (資料3説明)
	(意見交換)
谷川委員	・共通取組事項とは、職場や自宅の中で 1 つのことを皆で実践しましょうということでのよいのか。
事務局 (増田環境安全部長)	・ゼロカーボンに意識がない方にも関心を持ってもらうために、まずはこの協議会で 1 つの目標を持って、それに向かって各自または各団体等で意識的に取組むことで、ムーブメントを起こせないかと考えている。
浅野会長 (議長)	・次年度の環境フォーラムなどに、その取組みが反映されるということでよろしいか。
事務局 (増田環境安全部長)	・共通取組項目については、問1の中から1つ、各自、団体等で取組んでいただきたい。 ・環境フォーラムや行政との取組みに関しては、問2と問3で皆様からいただいた意見やアイデアを参考に、今後、行政としてできることを、優先順位をつけながら考えていく。その中で、今後の協議会で皆さんに改めて意見を伺っていく。
浅野会長 (議長)	・意見がなければ、事務局としての考えを伺いたい。
事務局 (前田環境政策課長)	・皆様が選んだ取組みの上位は、LED 化、再エネ設置、食品ロス削減、3R 推進。その中で多くの方にとって取組みやすいのは食品ロスと 3R。一方、3R は、本市はリサイクル率も高く、全国的にも高い取組みを市民や事業者の協力を得て実施し、一定の成果を上げている。今回は新たに食品ロス削減の取組みはいかがか。
谷川委員	・皆様の業種、生活も異なる中、共通で何かをやると言われてもイメージが沸かない。

杉沢委員	・食品ロスも3Rもオリジナリティや加須の地域性といった点で2つとも当てはまらない。 ・せっかくであれば、加須の自然を活かした、加須でないとできないようなことを決めたいという気がする。
事務局 (前田環境政策課長)	・共通目標に関しては、加須らしさというスポットを当てた取組みを選ぶことは現時点では難しい。まずは皆様でできること、やれることを、1年間の目標、スローガンとして設定したい。そして、適宜、見直しを図りながら、より取組みしやすいものにしていきたいと考えている。 ・加須らしさという点では、市の事業化や環境フォーラムなどで、まずは少しでも特徴を出していければと思う。
浅野会長 (議長)	・今回、アンケートを通して意見させていただいたが、発足年度に色々な意見を頂戴したということだけではなく、アクションの方向性が何もないよりはあった方が良いという風に考えれば、事務局案を受けとめても良いと思うがいかがか。
各委員	(拍手) 反対意見なし
	5 その他
事務局 (前田環境政策課長)	令和7年度スケジュール(案)について(資料4説明)
オブザーバー	オブザーバーより今年度の総括
石原氏	・日本全国で、自治体の脱炭素の取組みがかなり進んできている状況であるが、加須市は今年度が第一歩である。 ・今後どのような取組みをされるかは、色々な立場の皆様に意見を伺い、それを反映し、実行していただきたい。 ・加須市ならではの部分もぜひ出していただき、全国に加須市モデルとして広まっていくことが最終目標である。
八林氏	・協議会の立ち上げから入らせていただいたが、皆様からの色々な意見がある中で、ナレッジシェアができたことがまずは良かったと思う。 ・今後も色々なテーマを取り扱える協議会だと思うので、ぜひ皆様の団体や会社で我田引水的にやっていき、意見を出し合い、そして、そういうことにも色々な補助をつけてもらう、政策方法を強化してもらうような考えがあると、より活発な議論になるかと思う。引き続き、来年度以降も関心を寄せていただき、議論に参加していただきたい。
事務局	6 閉 会
会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。	
令和7年3月25日	
署名 浅野和生	